

18歳意識調査 「第24回 - 子どもと家族 -」要約版

日本財団 2020年4月28日

目次

調査概要	3
育った家庭（施設）を自分の居場所と感ずるか	5
育った家庭（施設）を居場所と感ずる理由	6
育った家庭（施設）を居場所と感ずない理由	7
家庭以外に居場所があるか	8
家庭以外で居場所と感ずる場所	9
家庭・家庭以外で居場所を感ずるか	10
自分の居場所と感ずる場所がない理由	11
子どものころに家族との思い出はあるか	12
子どものころの家族との思い出	13
体罰を受けたことがあるか	14
体罰を受けた場所	15
「しつけ」としての体罰を容認するか	16
体罰を容認しない理由	17
体罰を容認する理由	18
体罰だと思ふもの	19
体罰だと思ふもの（個数）	20
虐待が相次いでいる事実 認知	21
虐待が起こる原因	22
児童福祉法・児童虐待防止法の改正 認知	23
児童福祉法・児童虐待防止法の改正で虐待は減ると思ふか	24
虐待・体罰をなくし、子育てを社会全体で支援するためには	25
体罰を受けた経験有無別／体罰容認・非容認別の回答	27

調査概要「18歳意識調査」 -子どもと家族-

調査対象 全国の17歳～19歳男女

回答数 1000
※下記の割付にて回収

	17歳	18歳	19歳	計
男性	166	167	167	500
女性	166	167	167	500
計	332	334	334	1000

調査除外 下記の関係者は調査から除外
印刷業・出版業/マスコミ・メディア関連/
情報提供サービス・調査業/広告業

実施期間 2020年3月19日（木）～3月22日（日）

調査手法 インターネット調査

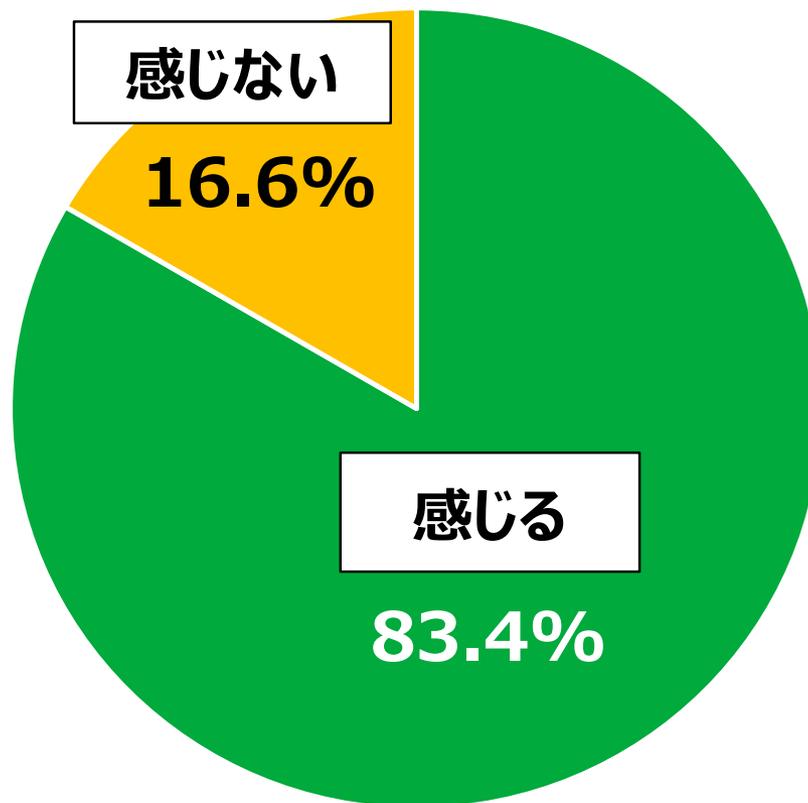
※注記：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

要約

育った家庭（施設）を自分の居場所と感じるか

83.4%が育った家庭（施設など）を自分の居場所と感じると回答。

Q 育った家庭（育った施設など）を自分の居場所と感じますか。（n=1000）

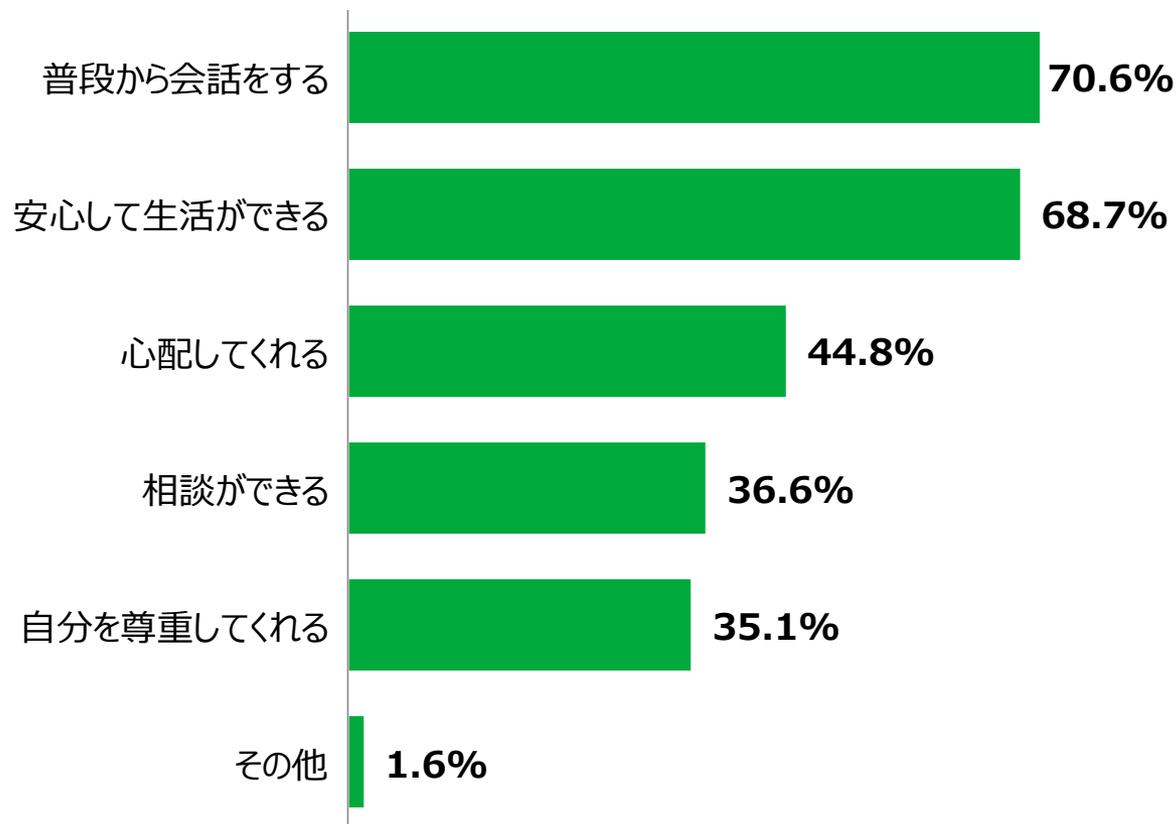


育った家庭（施設）を居場所と感じる理由

居場所と感じる理由として「普段から会話をする」（70.6%）が最多。次いで「安心して生活ができる」（68.7%）、「心配してくれる」（44.8%）と続く。

■育った家庭（育った施設など）を自分の居場所と「感じる」回答者

Q 前問で育った家庭（育った施設など）を居場所と「感じる」と答えた理由をお選びください。（複数回答）（n=834）

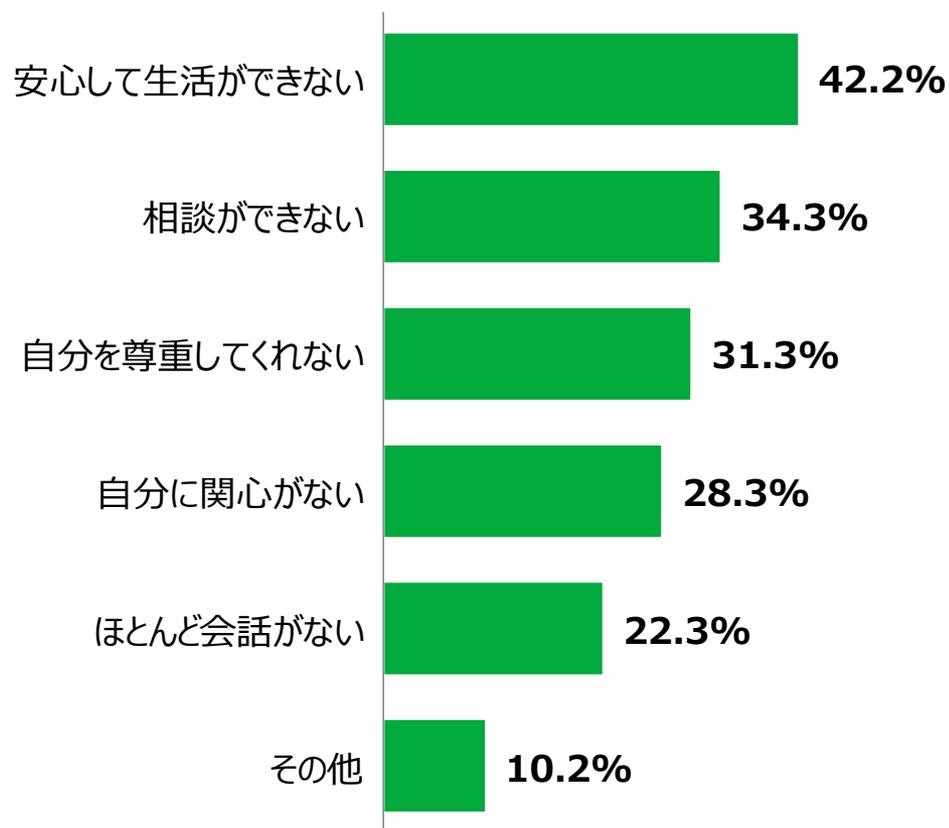


育った家庭（施設）を居場所と感じない理由

居場所と感じない理由として「安心して生活ができない」（42.2%）が最多。次いで「相談ができない」（34.3%）、「自分を尊重してくれない」（31.3%）と続く。

■育った家庭（育った施設など）を自分の居場所と「感じない」回答者

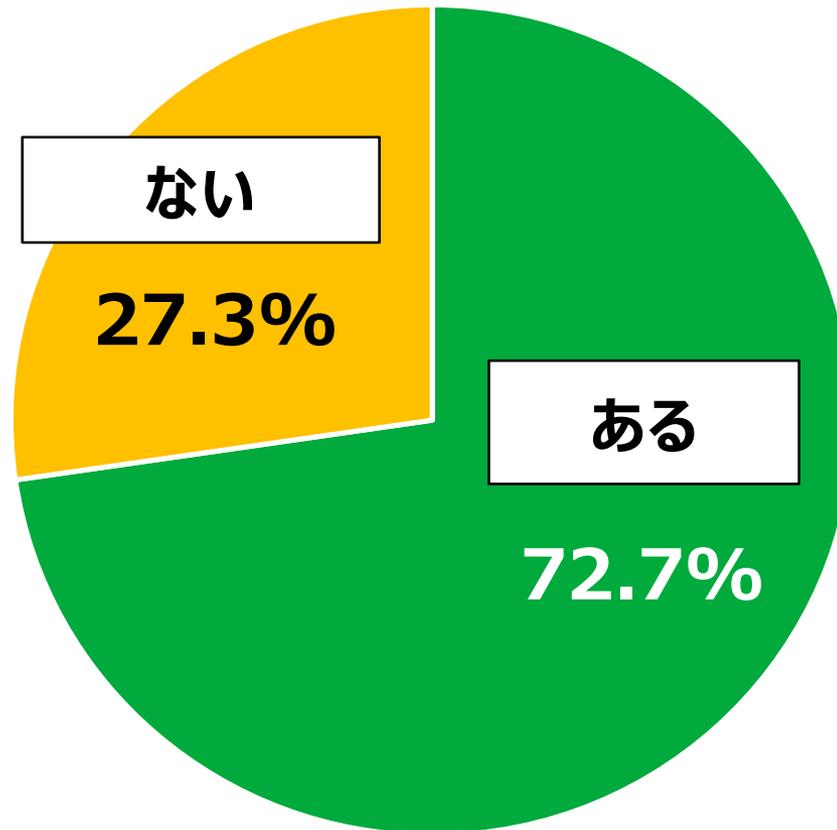
Q 前問で育った家庭（育った施設など）を居場所と「感じない」と答えた理由をお選びください。（複数回答）（n=166）



家庭以外に居場所があるか

72.7%の人が家庭以外に居場所があると回答。

Q 家庭以外に居場所がありますか。(n=1000)

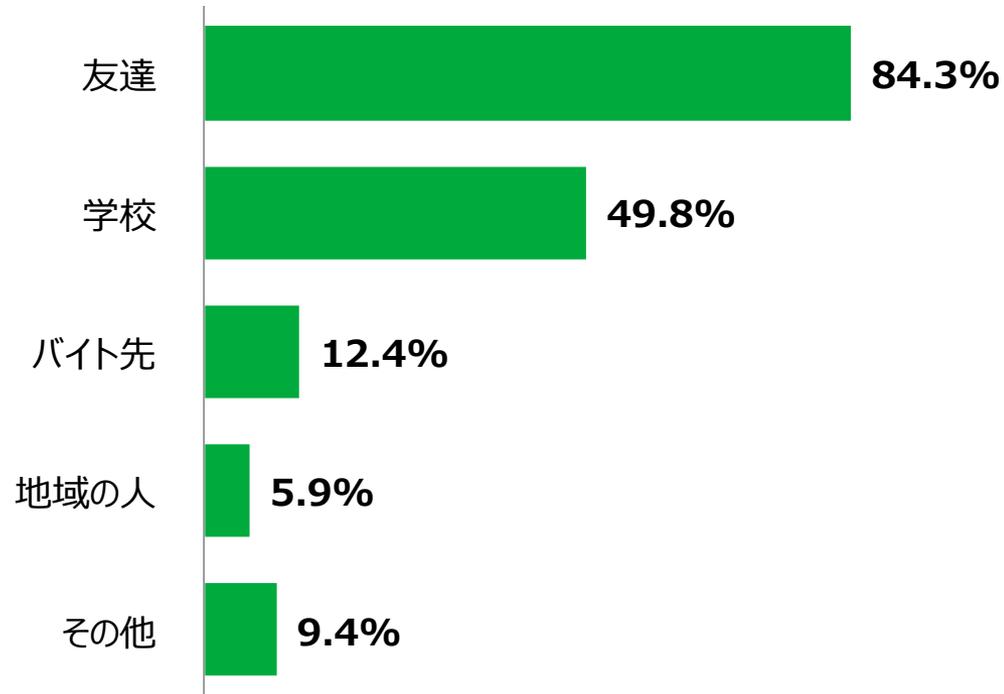


家庭以外で居場所と感ずる場所

居場所と感ずる場所は「友達」(84.3%)が最多。次いで「学校」(49.8%)が多い。

■家庭以外に居場所が「ある」回答者

Q 居場所と感ずる場所をお選びください。(複数回答) (n=727)



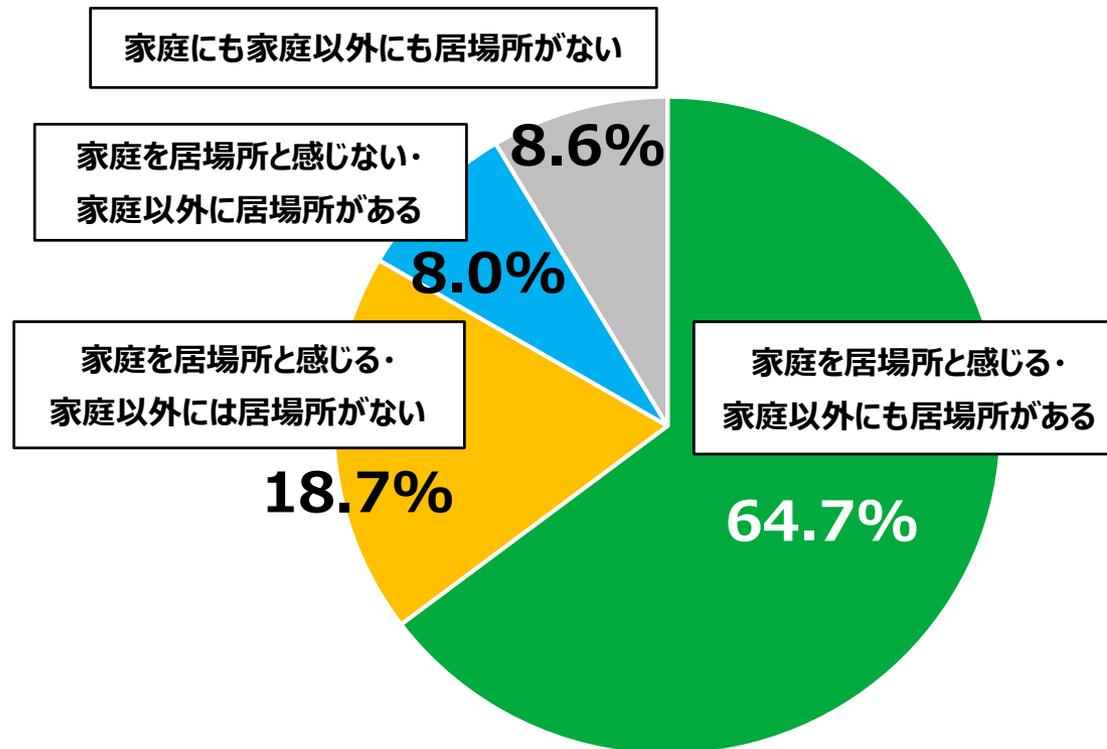
家庭・家庭以外で居場所を感じるか

64.7%の人が家庭にも家庭以外にも居場所があると感じていると回答。
反対に、家庭にも家庭以外にも居場所がないと回答したのは、全体の8.6%。

Q 育った家庭（育った施設など）を自分の居場所と感じますか。（n=1000）

Q 家庭以外に居場所がありますか。（n=1000）

※上記2設問の回答の内訳



自分の居場所と感ずる場所がない理由

- ・ 居場所と感ずる場所がない理由として、「周りとは合わない」「排除されているから」「常に否定され続けているから」「信用できる人がいないから」など、周囲の人（特に親）との関係性から、疎外感や孤独感を感じている回答が多い。また「自分の自由にできないから」「色々制限されるから」など、自分の行動を自由に決められない環境であることに不満を抱いている人も。

■ 育った家庭（育った施設など）を自分の居場所と「感ずない」かつ家庭以外に居場所が「ない」回答者

Q 「育った家庭（育った施設など）、それ以外にも自分の居場所と感ずる場所がない」とお答えになった方にお聞きします。その理由をご記載ください。（自由回答抜粋）（n=86）

回答

- ・ いつどこで誰に何をされるかわからない世の中という事実がある以上、自分の居場所を作ってはいけなかったから（男性）
- ・ いつも怯えながら生きている（男性）
- ・ どこにいても、自分が満足できる、安心できるというわけではないから。（男性）
- ・ どこにいても辛くなるから（女性）
- ・ どこにも行かないから（男性）
- ・ バチバチした家庭だから（男性）
- ・ 家はうるさくてストレス、でもそこにもいたくない（女性）
- ・ 家族に反感を感じているから。（女性）
- ・ 基本的に一人であるから（女性）
- ・ 居場所といえる場所がない。家族よりも自分を大切にしてくれる人には出会えなかったが、その人にはその人の家族の居場所があり、自分の新しい居場所にはならない。（女性）
- ・ 苦しい（女性）
- ・ 兄弟とは親の対応が違う（男性）
- ・ 嫌だから（男性）
- ・ 私はどこにもいてはいけなかった（男性）
- ・ 自分がわからないから（女性）
- ・ 自分が感ずないから（男性）
- ・ 自分のお金で生きてない（女性）
- ・ 自分の自由にできないから（女性）
- ・ 自分を必要としている人がいないと思うから（女性）
- ・ 自分を必要としてくれる居場所がない（女性）
- ・ 周りとは合わない（男性）
- ・ 小さい頃からずっとDVを受けていた。親の気分で携帯をつかえなくされたため、友達とも遊べない。（女性）
- ・ 常に否定され続けているから（女性）
- ・ 色々制限されるから（女性）
- ・ 信用できないから（女性）
- ・ 信用できる人がいないから（女性）
- ・ 心が安らげないから（女性）
- ・ 親がうざい（女性）
- ・ 昔から両親の仲が悪く、理不尽なことを言われたりした。高校のときに両親は別居したが、連れられた母のもとで更に理不尽な扱いをされ、父親のもとに行ってもなかなかコミュニケーションが取れなかったり、自分のことを尊重してくれなかった。（女性）
- ・ 全員嫌い（男性）
- ・ 全部を曝け出せない（女性）
- ・ 息苦しく感ずる（男性）
- ・ 特に生きてる気がしない（男性）
- ・ 特に他のコミュニティがないから（女性）
- ・ 毒親（女性）
- ・ 排除されているから（男性）
- ・ 父親とうまくいかずお金とかで揉めるから（男性）
- ・ 部屋がない（女性）
- ・ 本当の子供じゃないから（男性）
- ・ 落ち着ける場所がないから（女性）
- ・ 話したいと思える人がいない（男性）

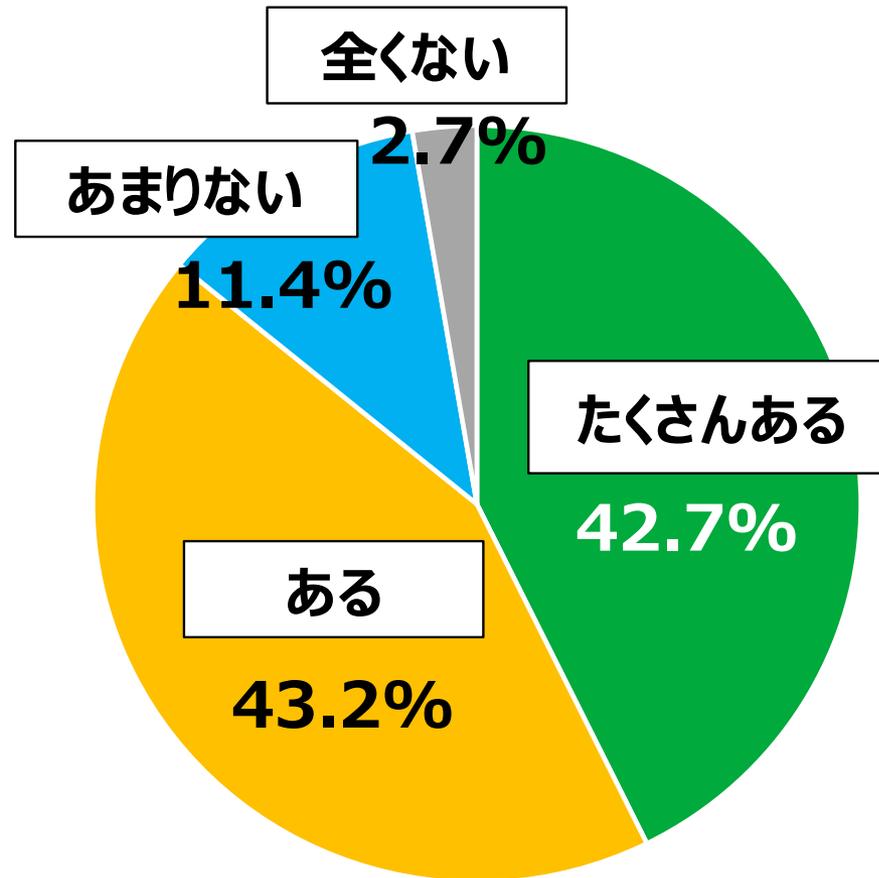
【自分の居場所と感ずる場所がない理由「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

子どものごころに家族との思い出はあるか

「たくさんある」が42.7%、「ある」が43.2%。

Q 子どものごころに家族との思い出はありますか。(n=1000)

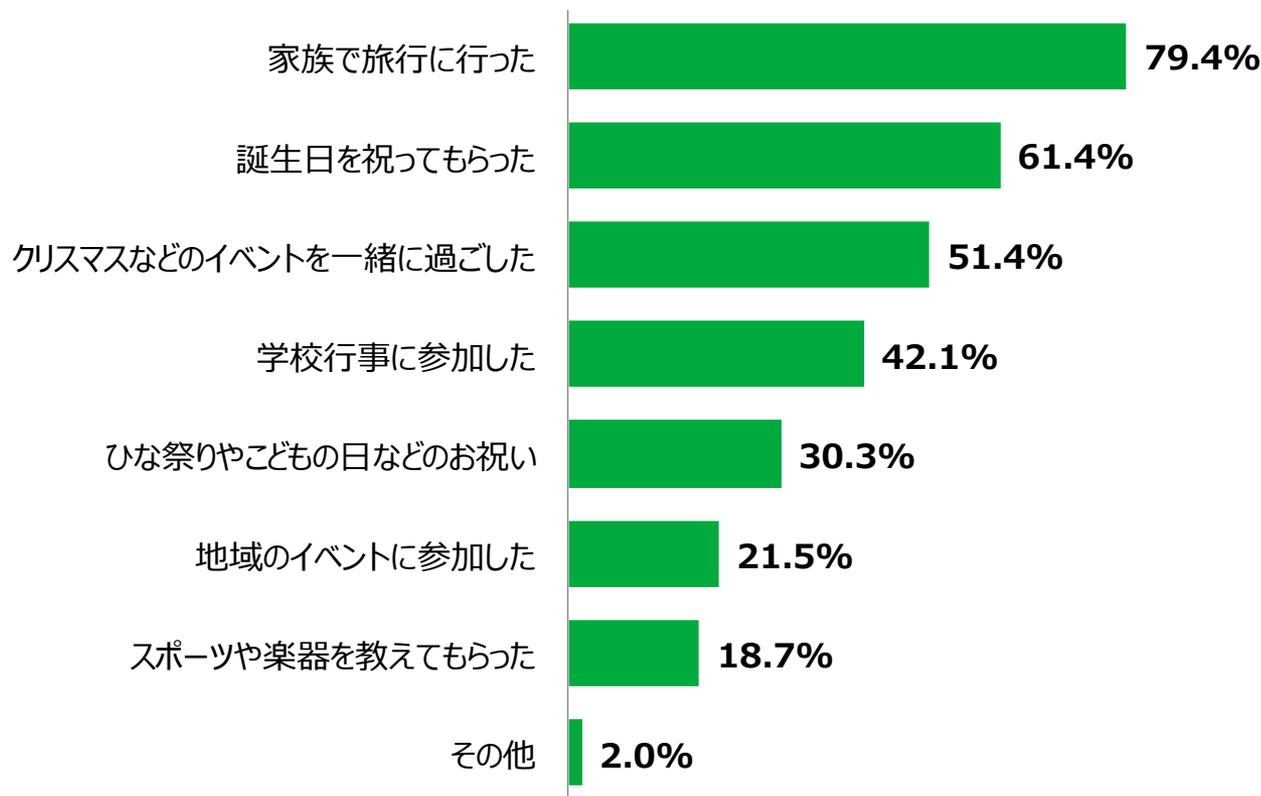


子どものころの家族との思い出

特に心に残った思い出は「家族で旅行に行った」(79.4%)が最多。次いで「誕生日を祝ってもらった」(61.4%)、「クリスマスなどのイベントを一緒に過ごした」(51.4%)と続く。

■子どものころに家族との思い出は「たくさんある」「ある」「あまりない」回答者

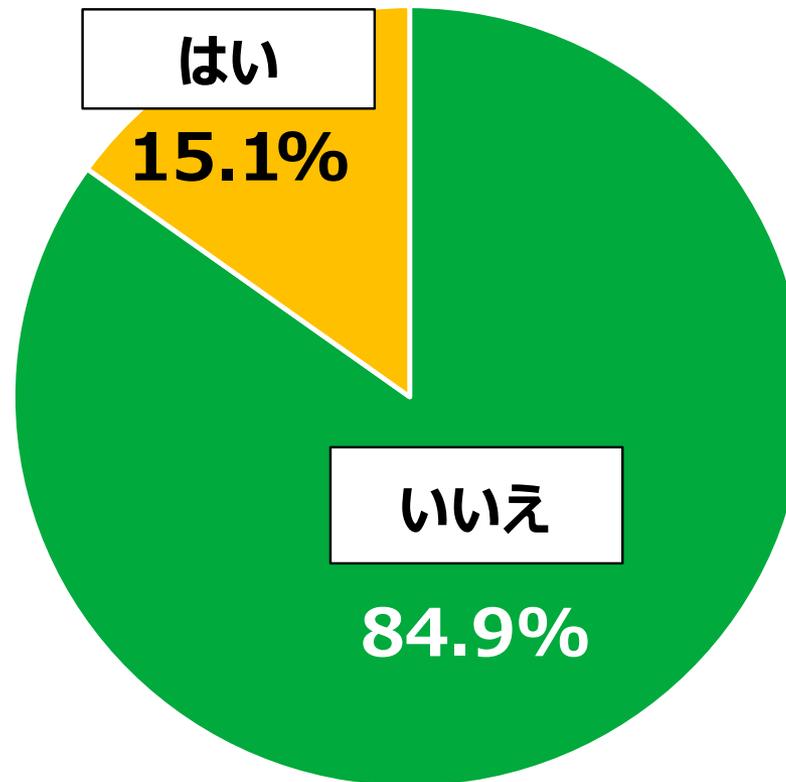
Q 「子どものころに家族との思い出がある」方にお聞きします。特に心に残った思い出は何ですか。以下からお選びください。
(複数回答) (n=973)



体罰を受けたことがあるか

84.9%の人が「いいえ（＝体罰を受けたことがない）」と回答。体罰を受けたことがある人は15.1%。

Q 体罰を受けたことがありますか。（n=1000）

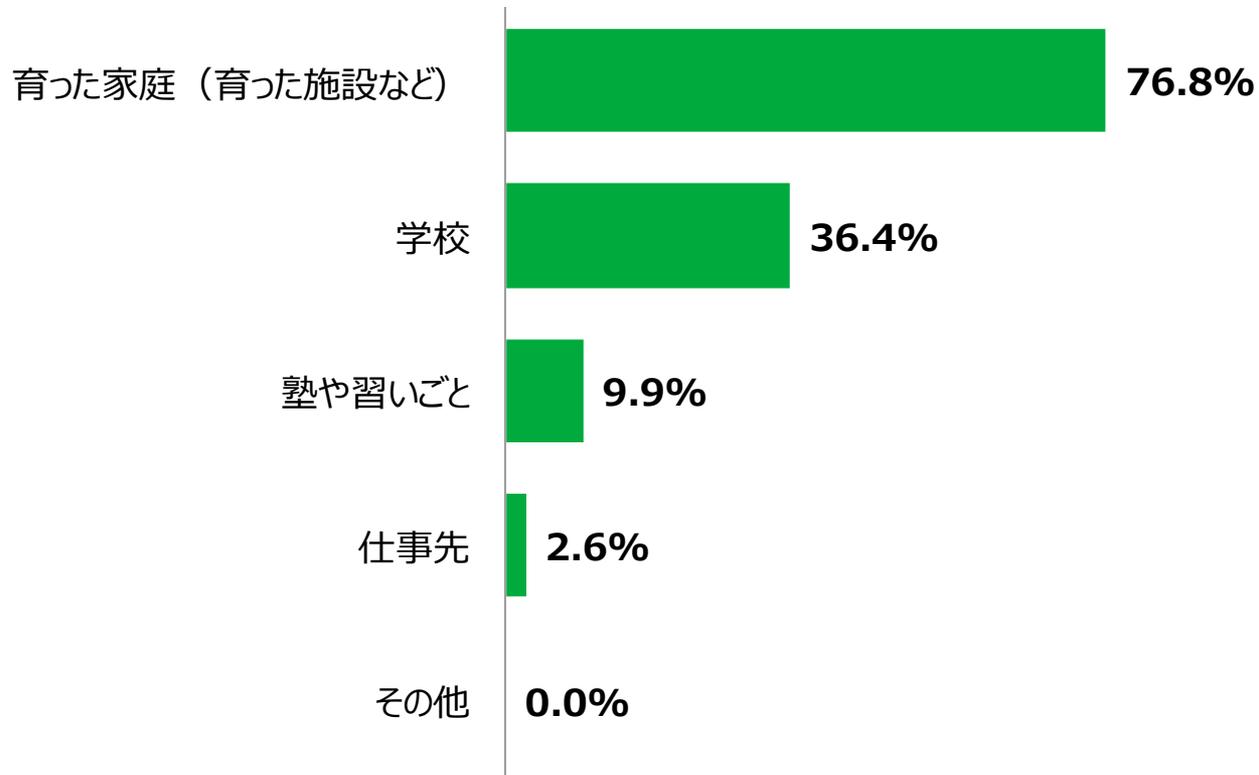


体罰を受けた場所

体罰を受けた場所は「育った家庭（育った施設など）」（76.8%）が圧倒的に多い。
次いで「学校」（36.4%）。

■ 体罰を受けたことがある回答者

Q 体罰を受けた場所はどこですか。（複数回答）（n=151）

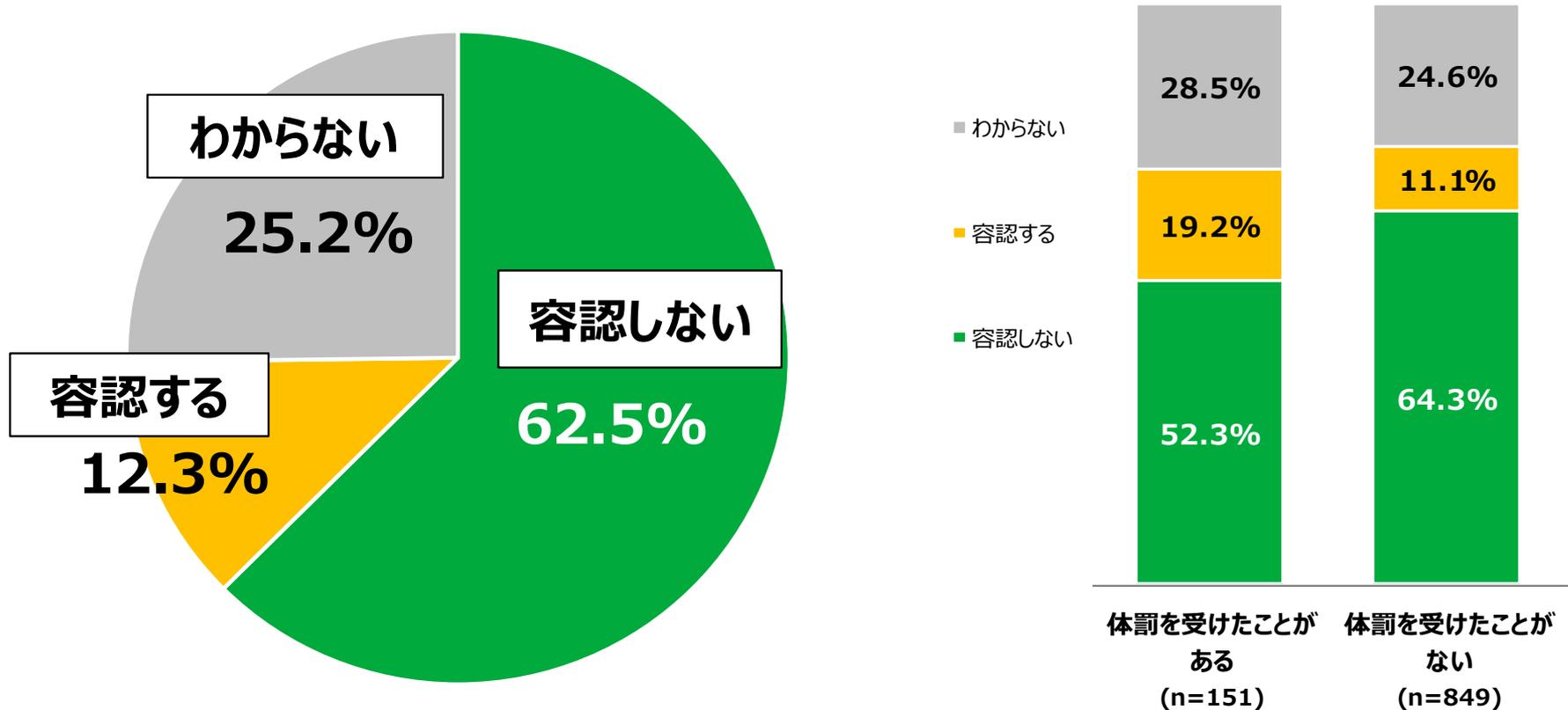


「しつけ」としての体罰を容認するか

62.5%の人が「しつけ」としての体罰を「容認しない」と回答。「容認する」(12.3%)を大きく上回る。

- 過去に体罰を受けたことがある層は受けたことがない層に比べて、「容認する」という回答が多い。

Q あなたは「しつけ」としての体罰を容認しますか。(n=1000)



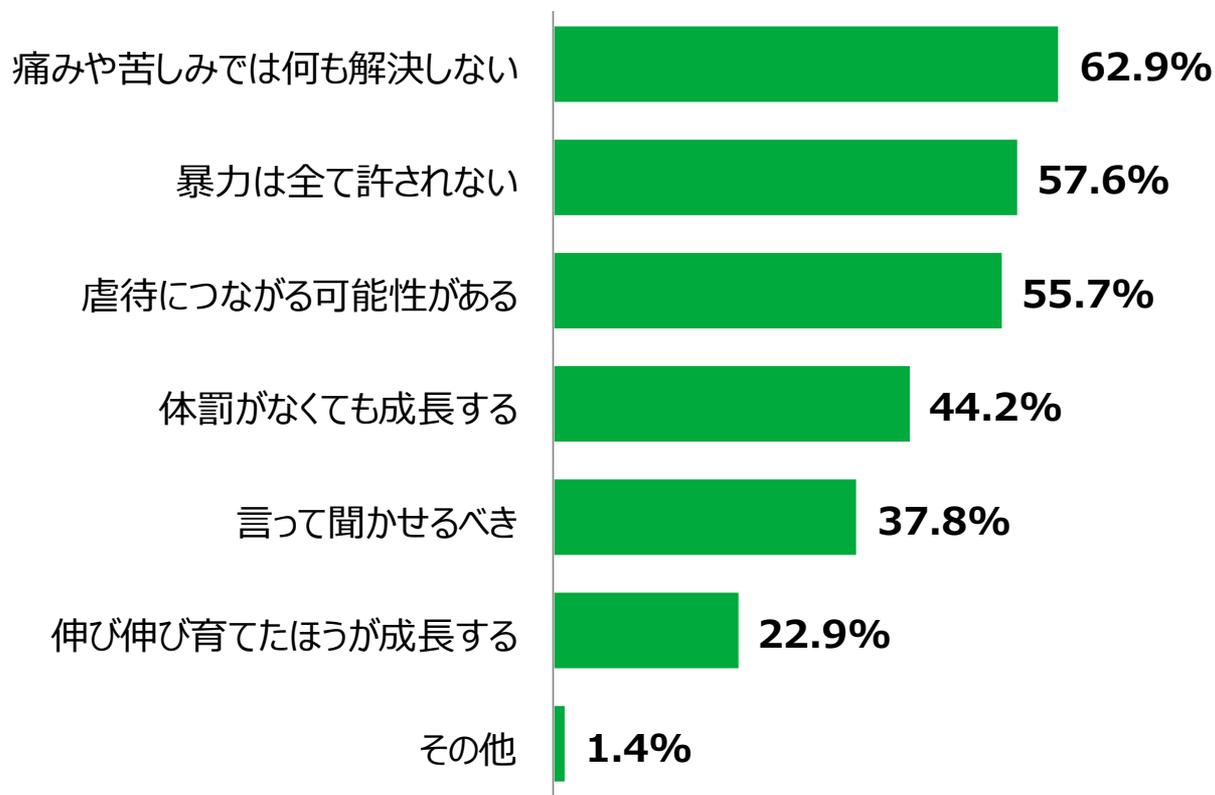
参考：P27 体罰を受けた経験有無別／体罰容認・非容認別の回答

体罰を容認しない理由

容認しない理由として「痛みや苦しみでは何も解決しない」(62.9%)が最多。次いで「暴力は全て許されない」(57.6%)、「虐待につながる可能性がある」(55.7%)と続く。

■体罰を「容認しない」回答者

Q 前問で、「体罰を容認しない」と答えた理由をお聞かせください。(複数回答) (n=625)

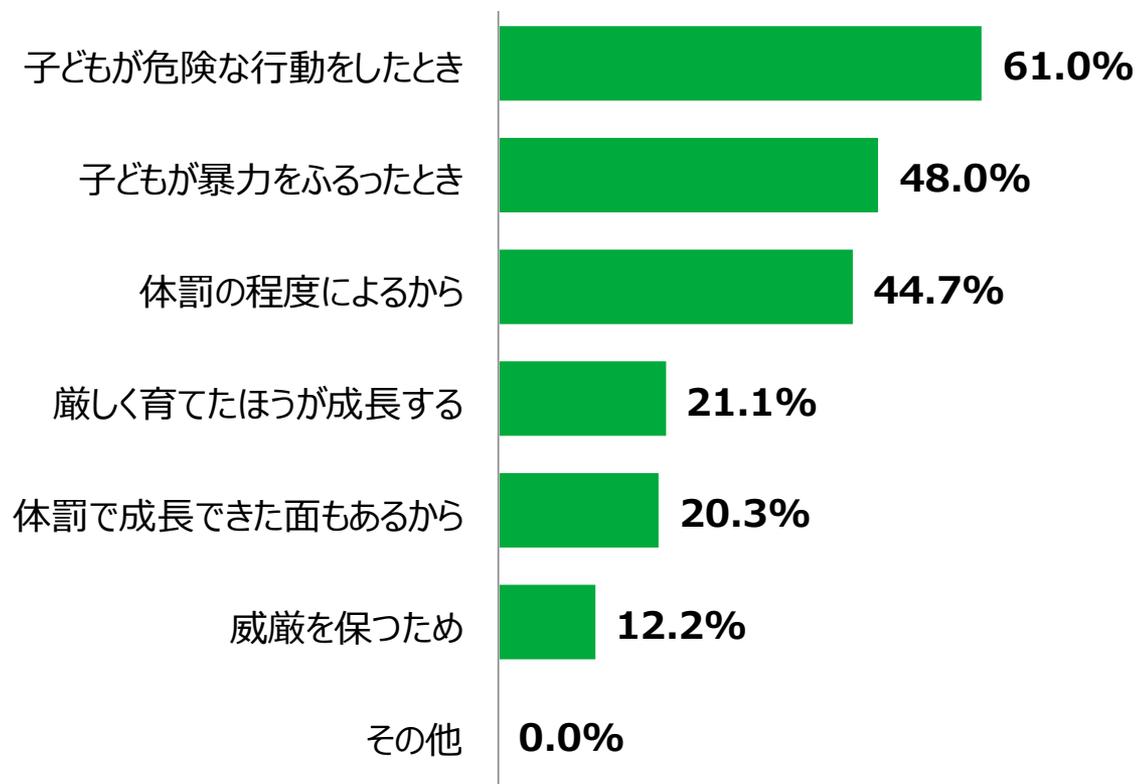


体罰を容認する理由

容認する理由として「子どもが危険な行動をしたとき」(61.0%)が最多。次いで「子どもが暴力をふるったとき」(48.0%)、「体罰の程度によるから」(44.7%)と続く。

■体罰を「容認する」回答者

Q 前問で、「体罰を容認する」と答えた理由をお聞かせください。(複数回答) (n=123)



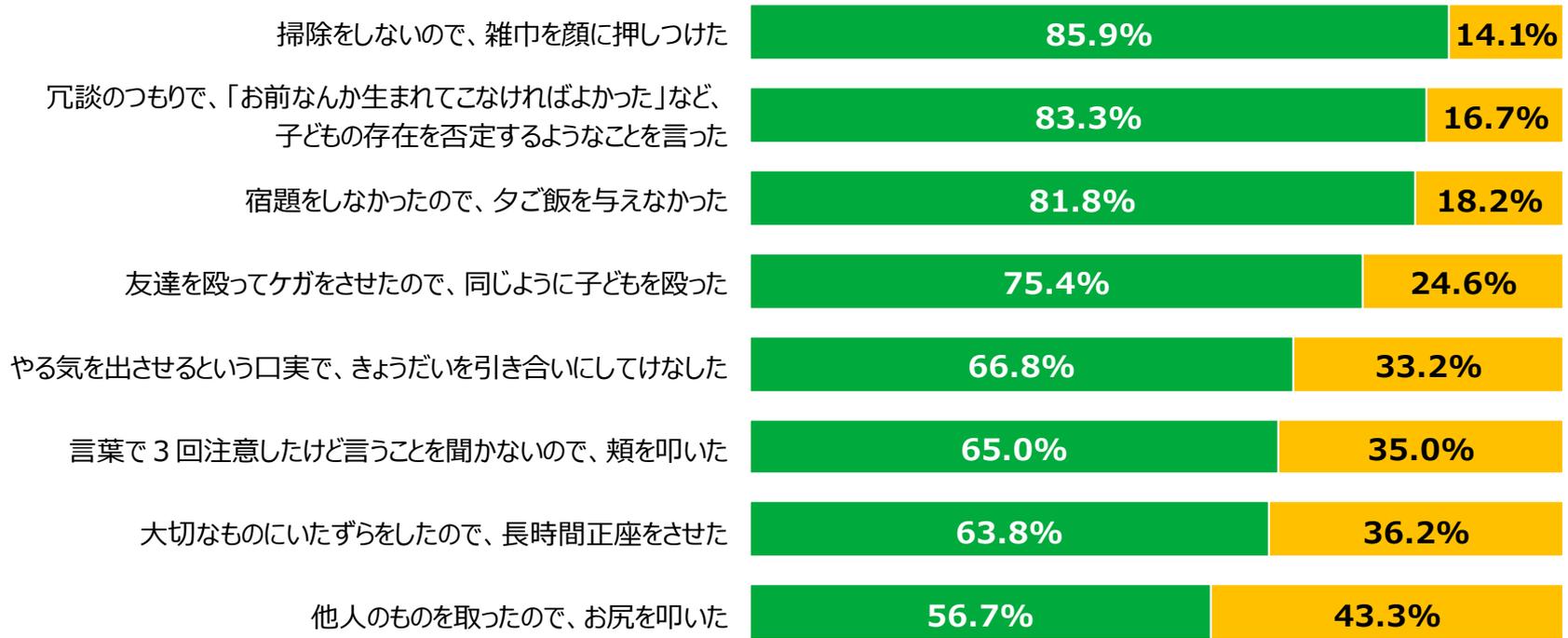
体罰だと思うもの

最も多くの人々が体罰だと思うものとして挙げたのは「掃除をしないので、雑巾を顔に押しつけた」で、85.9%の人が「思う」と回答。最も少ないのは「他人のものを取ったので、お尻を叩いた」（体罰だと思う：56.7%）。

- このほか「冗談のつもりで、『お前なんか生まれてこなければよかった』など、子どもの存在を否定するようなことを言った」（83.3%）、「宿題をしなかったので、夕ご飯を与えなかった」（81.8%）は、8割以上の人々が体罰だと思うと回答。

Q 厚生労働省は指針で体罰について以下のガイドラインを示しています。それぞれ体罰だと思いますか。（n=1000）

■ 思う ■ 思わない



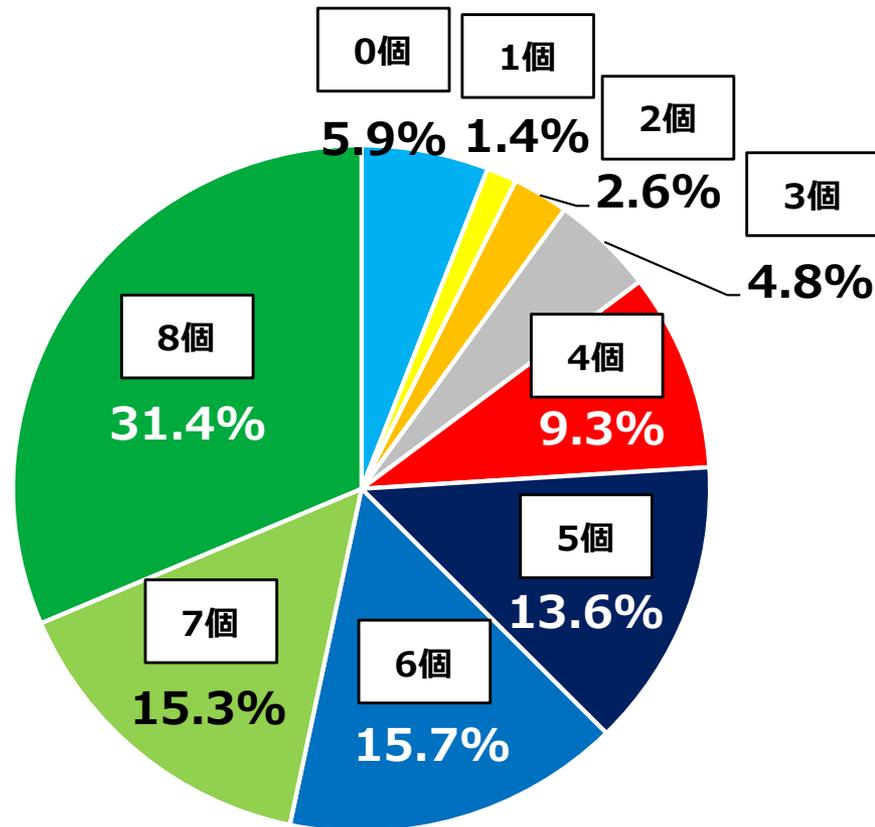
体罰だと思ふもの（個数）

呈示したガイドライン8個全てを「体罰だと思ふ」と回答したのは31.4%。

Q 厚生労働省は指針で体罰について以下のガイドラインを示しています。

それぞれ体罰だと思いますか。（n=1000）

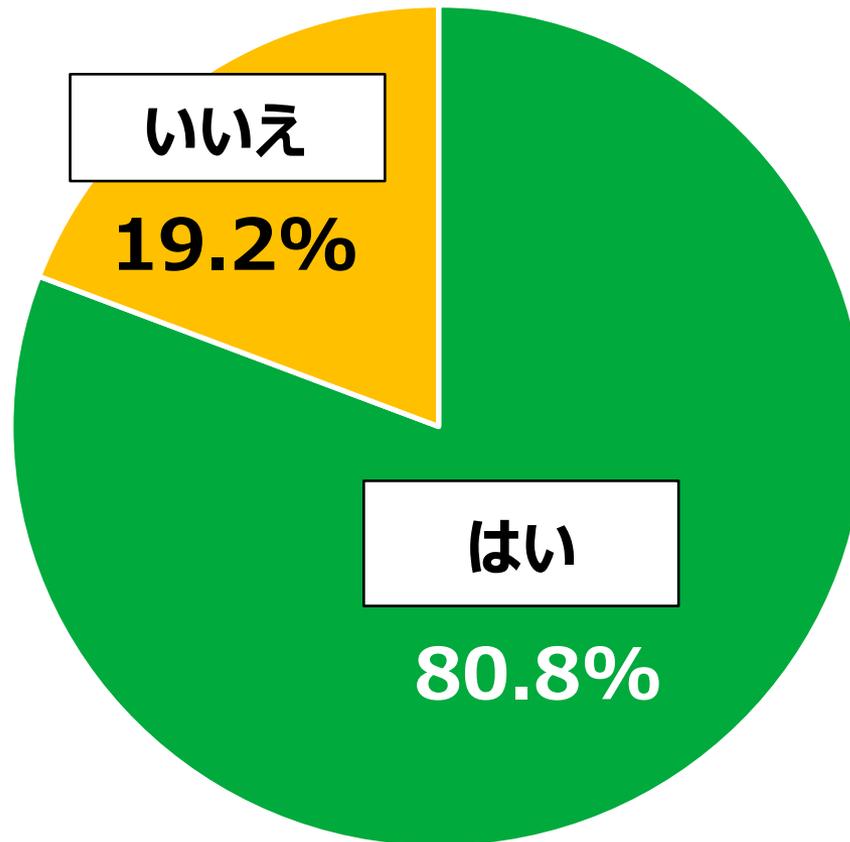
※8個のガイドラインを呈示し、その中でいくつ「体罰だと思ふ」と回答したかを集計した。



虐待が相次いでいる事実 認知

虐待が相次いでいる事実について、80.8%の人が知っているという回答。

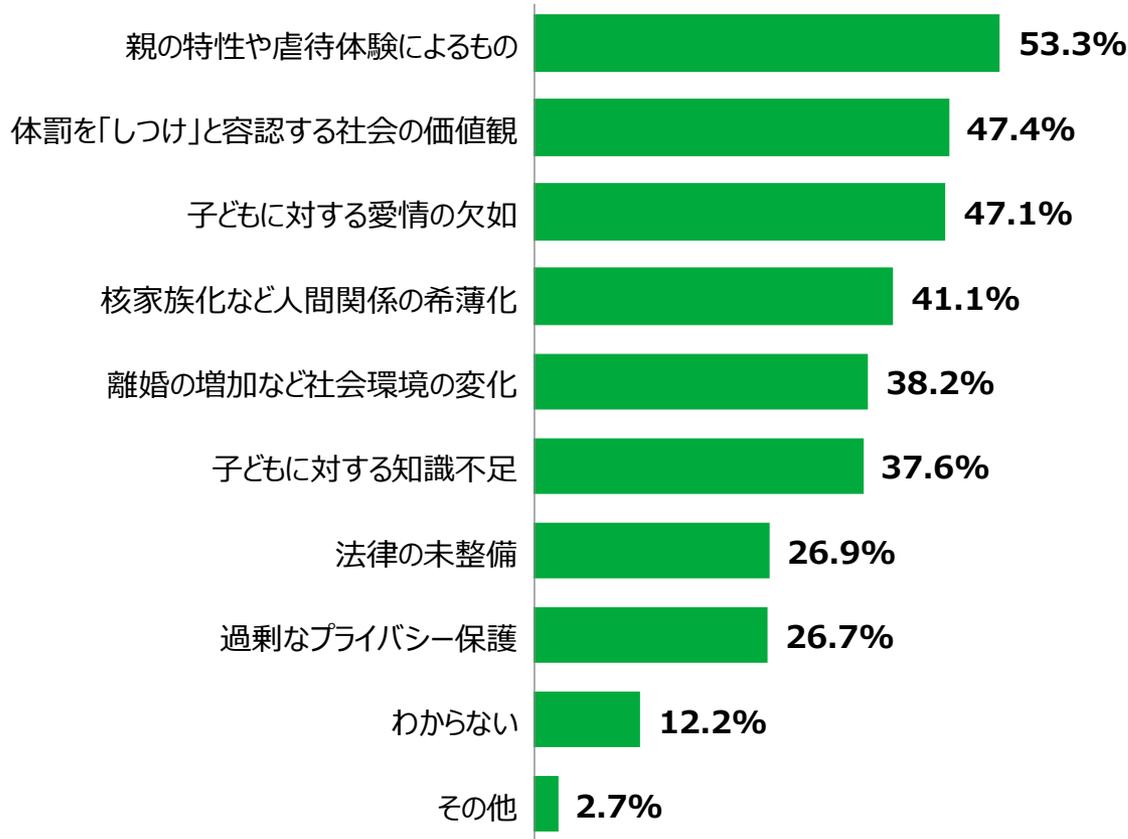
Q 昨今、全国で凄惨な虐待が相次ぎ、大きな問題となっています。虐待が相次いでいる事実を知っていますか。(n=1000)



虐待が起こる原因

虐待が起こる原因として「親の特性や虐待体験によるもの」(53.3%)が最多。次いで「体罰を『しつけ』と容認する社会の価値観」(47.4%)、「子どもに対する愛情の欠如」(47.1%)が上位に挙がる。

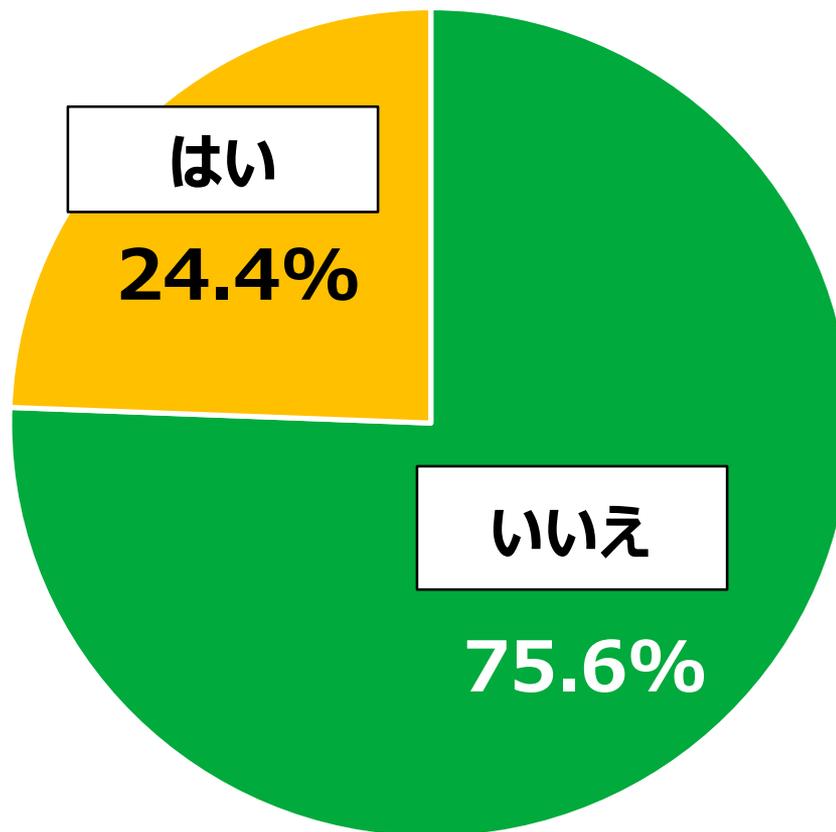
Q 2018年度1年間で児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は159,850件で過去最高でした。虐待が起こる原因をどう考えますか。以下からお選びください。(複数回答) (n=1000)



児童福祉法・児童虐待防止法の改正 認知

児童福祉法と児童虐待防止法の改正について、75.6%の人が「いいえ（＝知らない）」と回答。認知者は24.4%。

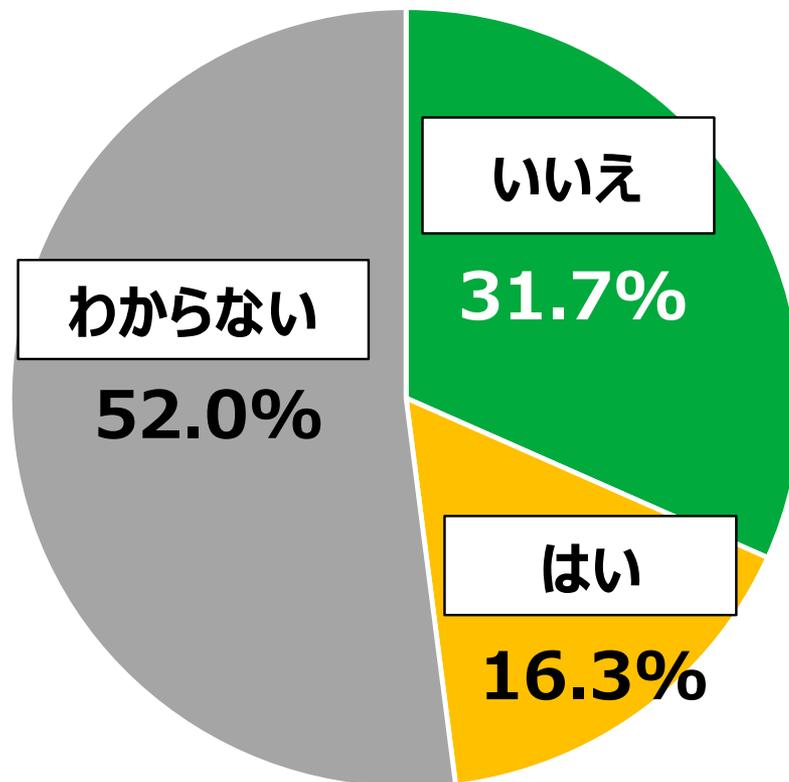
Q 2020年4月から改正児童虐待防止法と改正児童福祉法が施行されます。
親権者や里親による体罰禁止と児童相談所の体制強化を盛り込んだ法律です。この法律が施行されることを知っていますか。
(n=1000)



児童福祉法・児童虐待防止法の改正で虐待は減ると思うか

法律の改正により虐待は減ると思うかという質問では「いいえ」が31.7%。「はい」(16.3%)を上回る。また「わからない」が過半数にのぼる。

- Q 2020年4月から改正児童虐待防止法と改正児童福祉法が施行されます。親権者や里親による体罰禁止と児童相談所の体制強化を盛り込んだ法律です。この法律により虐待は減ると思いますか。(n=1000)



虐待・体罰をなくし、子育てを社会全体で支援するためには 1/2

- 「地域全体で協力して子育てを行うことができる社会づくりを行う」「家庭だけでなく、学校や行政もが一体となって子を見守っていく」など、学校や地域社会と連携して子育てをするべきという意見が多く挙がった。
- 「親が相談できる場所を増やして負担がかかりすぎないような環境を作る」といった親の負担を軽減したいという意見や、子どもに対しては「体罰を受けたときに助けを求められる相談の窓口をしっかりと用意するのが必要」「子供が体罰を他の人に言える環境」など、親子それぞれをサポートする場所や支援が必要との回答が目立った。

Q 児童虐待をなくし、体罰によることなく、子育てを社会全体で支援するためにはどうすればよいと考えますか。(自由回答抜粋) (n=1000)

地域や社会とのつながり

- まずは金銭的なところから親の負担を減らすべきである。そして地域全体で協力して子育てを行うことができる社会づくりを行う (男性)
- もっと子育てを地域でできるように一人で抱え込まないように助け合えるような社会、他人に寛容になれる余裕がある社会にしていこう (女性)
- 家庭だけでなく、学校や行政もが一体となって子を見守っていくこと (男性)
- 学校や地域ぐるみでの行事を大規模にして、希薄化した人間関係を濃くする (男性)
- 希薄化した人間関係を改善すること。支援体制を整える。親自身の孤独感や不安を和らげるサポート。 (女性)
- 虐待を完全になくすことは難しいと思うが、地域の人たちとのコミュニティを形成することによって、わずかな子供の変化または子供が助けを求められるような状況が必要であると考えます。 (男性)
- 行政と地域の連携を強くする (女性)
- 子どもを持つ家庭同士の関わりや連携が必要である (女性)
- 周りのサポート (女性)
- 親が孤立しないように支援する。 (女性)
- 親と子が孤立する環境を少なくし、居場所がある生活を送れるようにする (女性)
- 親の孤立化を防ぐ。 (女性)
- 体罰の撲滅に向けて社会で協力して近所の人同士のつながりを深くする (男性)
- 地域コミュニティ作りによって家庭を孤立化させないようにする (男性)
- 地域のコミュニティをもっと大事にするべき。そうすることによって、親も子ども見られる視線が多くなり、より少なくなるんじゃないかと思う。地域全体で子供を育てる。 (女性)
- 地域の繋がりや社会との繋がりをより濃くする機会をたくさん作る (男性)

親が相談しやすい場所を作る／親の負担の軽減

- まずは国が社会保障を充実させ親の経済的な負担を軽減させ、親と子が触れ合える時間を増やすことを手伝えるべきである。また、相談センターなどを夜中まで開くことにより、働いている親も気軽に相談できるようにしたい (女性)
- まず親自身のストレスを無くすこと。子育てに嫌気がさして虐待をしてしまうケースが多々あると思うのでそこを周りが協力してあげないといけない (女性)
- 子育てを地域全体で支援し、親が相談しやすい環境を作る (女性)
- 初めて子供を持った親は不安があると思うから気軽に子育てについて相談出来る場所を作る (女性)
- 親が子育てなどで不安になったときにもっと気軽に相談できるようにしてほしいと思います。あと経済的に子供が邪魔だと感じて、放置する人もいたりするので、もっと子供を持つ家庭に手当てをつけられたいと思います。 (女性)
- 親が相談できる場所を増やして負担がかかりすぎないような環境を作る (女性)
- 親にも負担がかかりすぎない社会を作るために、ストレスをためにくい環境を作る。 (女性)
- 親のストレスも軽減しながら、親子それぞれの相談できる場所や解決できる機関を作るべき。 (女性)
- 頼れる存在を作るべきだと思います。子育てをしている親は抱え込んでしまい、結果虐待に繋がる場合があるので、悩んだらすぐに頼れるコミュニティがあれば良いと思います。 (女性)

子どもが相談しやすい場所・逃げ込みやすい場所

- 子供が警察や教師に相談した際、細かく聞いてあげる。勇気を出したに違いないから (女性)
- 通報自体を事情でできない人や、子どもだけでも気軽に通報・相談できる場所を作る。 (女性)
- 子供が体罰を他の人に言える環境 (女性)
- 子供を虐待から守るための取り組みを社会全体で一生懸命やること、子供の声に耳を傾け、正直な気持ちを話せる場所を設けるなどをする。 (女性)
- 親は子育ての悩みの相談を、子供は体罰を受けたときに助けを求められる相談の窓口をしっかりと用意するのが必要だと思います。 (女性)
- 保健所が今よりちゃんと家庭一つ一つと連携すれば減ると思うし子供が兇相に行きやすい環境を作る (女性)

早期発見

- 相談できる人を見つけたり、体罰の早期発見をできるようにする。 (男性)
- 体罰をなくすのは無理だと思う。家庭内を覗いてみることはできないし、体罰を受けて育った親は体罰で教育しようとするから。そのため、体罰をなくすのではなく、体罰を受けている子どもをなるべく早く発見したり、適切な対応をしてあげることが重要であると思う。 (女性)
- 地域の人々と交流して体罰が発見されやすい環境にする。 (男性)
- 定期的に学校で健康診断を行いカウンセリングもつける (男性)
- 保育園の先生が保育園で体重管理や体のチェックなどを行い、問題がある場合は保健所などに報告し現状認知してもらい観察してもらっておく。 (女性)
- 周りの大人がいち早く気づくこと (女性)

【虐待・体罰をなくし、子育てを社会全体で支援するためには「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

虐待・体罰をなくし、子育てを社会全体で支援するためには 2/2

- 子育てへの理解を深めるべく「子どもへの接し方を学校できちんと教える」「子供に対する教育を子供の頃から行う。子供を持つとはどういうことでどんな責任を伴うのかを理解できる環境を作るべき」「性教育をきちんと行い、望まない妊娠を避けること」など子どもの頃から子育てや性について教育をする必要があるとの意見が多く挙がった。
- 「体罰をよく知ること」「虐待についての認識を深める」「一人一人の大人が虐待とは何かを理解することが大切だと思う」など社会が虐待の問題をしっかり認識する必要があるという声や、「体罰について一人一人が考えるべきだ」「子育てをすることの意味や責任を一人ひとりが考える」といった声も寄せられた。
- また、虐待への厳罰化や監視による防止の声も挙がる。

Q 児童虐待をなくし、体罰によることなく、子育てを社会全体で支援するためにはどうすればよいと考えますか。（自由回答抜粋）（n=1000）

虐待についての認識を深める／教育

- 学生への性教育強化をすることで、経済的に子育てが難しい若い親が虐待することを減らせるのではないかと考えます（女性）
- 今現場や家庭で起きている実情を調査し、適した対応をすること一人一人の大人が虐待とは何かを理解することが大切だと思う（女性）
- 虐待についての認識を深める（女性）
- 虐待についてもっと真剣に考えるべき（女性）
- 虐待は罪だということを学校で教育する（女性）
- 虐待を完全に無くす事は無理だと思う。子育てに関する教習のようなものがあれば間違った育児による虐待は減ると思う（女性）
- 子どもへの接し方を学校できちんと教える。初めての子育てでは分からないことだらけだろうから前もって教えておくべき。（男性）
- 子育ての参加者を増やすこと。特別養子縁組制度を充実させること。性教育をきちんと行い、望まない妊娠を避けること。緊急避妊用ピルの保険適用と、手に入りやすくすること。（女性）
- 子育てをすることの意味や責任を一人ひとりが考える（男性）
- 子供に対しての基本的な教育の仕方を教える。虐待の残酷さを分らせる。（女性）
- 子供に対する教育を子供の頃から行う。子供を持つとはどういうことでどんな責任を伴うのかを理解できる環境を作るべき。孤育てにならないような配慮を家族だけでなく自治体や友人と協力して行えるようにするべき。（女性）
- 全国の親御さんたちに正しい教育の仕方を布教すると共に教育に関する正しい知識を自発的に学ばなければならぬ(それが当然である)という空気、価値観を社会全体で作っていく。（男性）
- 体罰についてテレビなどで問題にし一人一人が考えるべきだ（女性）
- 体罰はするべきでないもっと世間にアピールするべき（女性）
- 体罰はやってはいけないことだという認識を社会に広める（女性）
- 体罰や虐待を当たり前せず、子供と親の意見をちゃんと家庭で話し合う事が大事だと思いました。（女性）
- 体罰をよく知ること（女性）

監視の目を行き渡らせる

- もっと監視する（男性）
- 監視の目を行き渡らせる。相談の体制を整える。（女性）
- まずは親や先生の意識改革を図り、前時代的な悪しき風習を撲滅する。ただ、意識改革だけでは効果が薄いと思われるので、地域連携型の監視システムのような、相互で情報を共有・提供して、未然に児童虐待を止められるできるだけ周囲の目が行き届いた仕組みを作ることで備えたい。（男性）

より厳しく取り締まる

- 虐待、体罰に対する法を厳しくしたり、虐待、体罰をした際の罪を重くする。（男性）
- 厳しく取り締まる（男性）
- 罪をもっと重くするべき（女性）
- 体罰や虐待に対して厳しくする。（男性）

【虐待・体罰をなくし、子育てを社会全体で支援するためには「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

体罰を受けた経験有無別／体罰容認・非容認別の回答 1/2

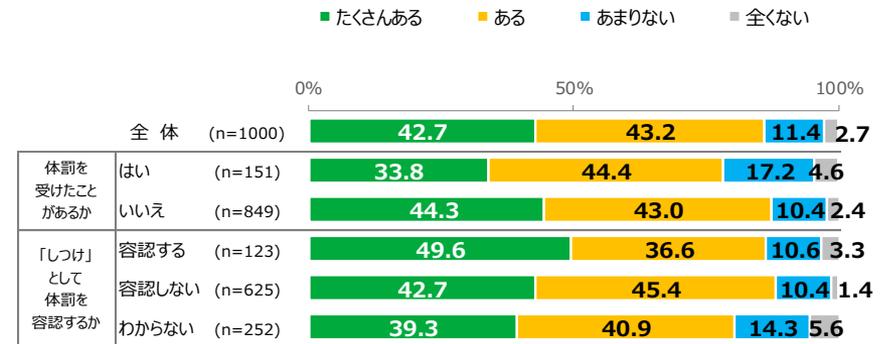
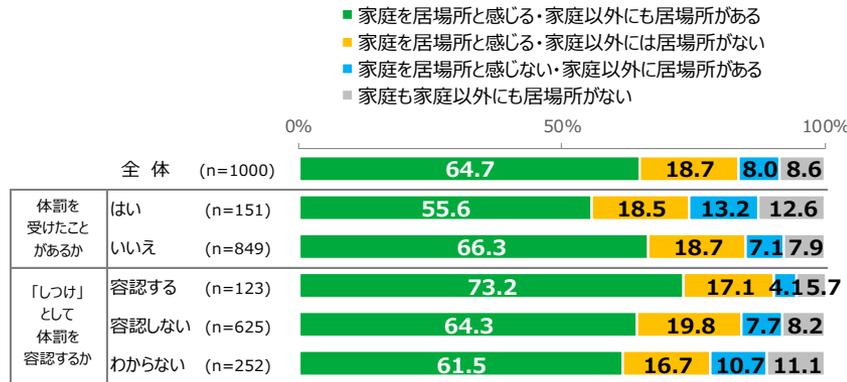
- 過去に体罰を受けたことがある層は、受けたことがない層に比べて、家庭を居場所と感じていない割合が高い。また、「しつけ」としての体罰について「容認する」という回答が多い。
- 体罰の容認については、男女でも差が見られ、女性のほうが「容認しない」という回答が多く、男性57.6%に対し、女性67.4%。

Q 育った家庭（育った施設など）を自分の居場所と感じますか。

Q 子どものころに家族との思い出はありますか。

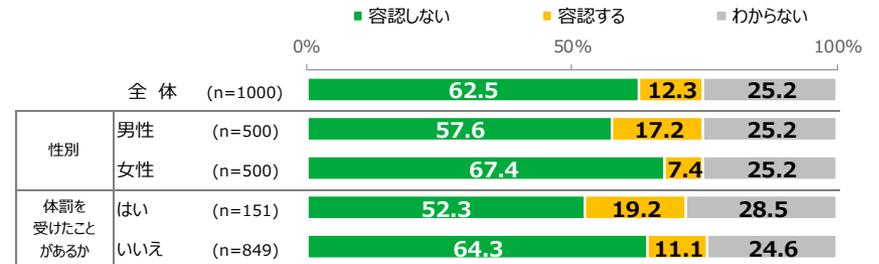
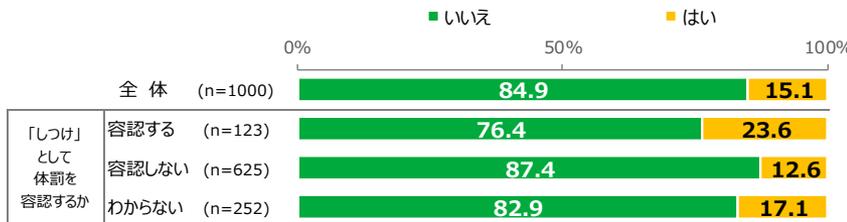
Q 家庭以外に居場所がありますか。

※上記2設問の回答の内訳



Q 体罰を受けたことがありますか。

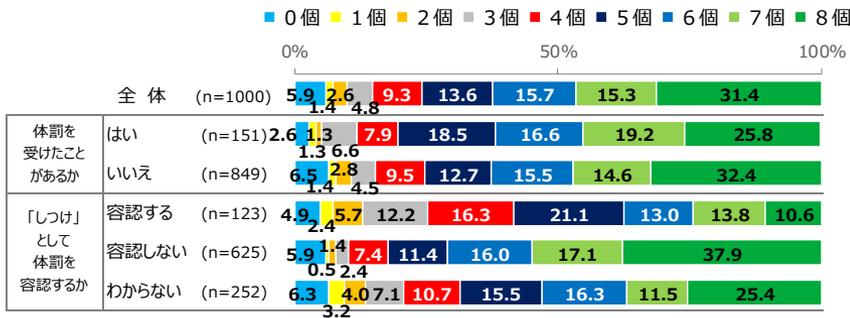
Q あなたは「しつけ」としての体罰を容認しますか。



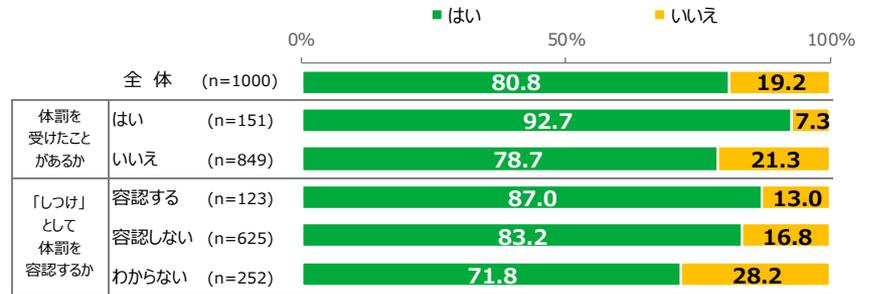
体罰を受けた経験有無別／体罰容認・非容認別の回答 2/2

- 体罰を容認しない層は、提示したガイドラインの中で体罰だと思うものが多く、37.9%が8個全てを「体罰だと思う」と回答。
- 体罰を受けたことがある層は、受けたことがない層に比べて、虐待が相次いでいる事実や法律改正についての認知率が高い。

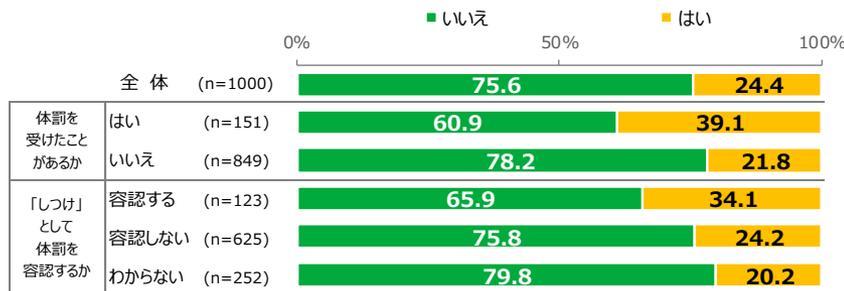
Q 厚生労働省は指針で体罰について以下のガイドラインを示しています。それぞれ体罰だと思いますか。
※8個のガイドラインを提示し、その中でいくつ「体罰だと思う」と回答したかを集計した。



Q 昨今、全国で凄惨な虐待が相次ぎ、大きな問題となっています。虐待が相次いでいる事実を知っていますか。



Q 2020年4月から改正児童虐待防止法と改正児童福祉法が施行されます。親権者や里親による体罰禁止と児童相談所の体制強化を盛り込んだ法律です。この法律が施行されることを知っていますか。



Q 2020年4月から改正児童虐待防止法と改正児童福祉法が施行されます。親権者や里親による体罰禁止と児童相談所の体制強化を盛り込んだ法律です。この法律により虐待は減るとお考えですか。

